

## 平成27年度幼稚園自己評価—評価・課題・改善方向

### 第1 初めに

平成27年度における札幌大谷幼稚園の学校評価は、大正時代からの歴史ある仏教園として、「真宗保育」というテーマに取り組むこととした。

このテーマである「真宗保育」とは、仏教の教えを拠り所にして行う「真に必要な本当の保育」と理解し、そのキーワードである「本願に行き、ともに育ちあう保育」を、「すべての者を平等に救わんとする仏様の慈愛のもと、子ども達を通して自分も成長する中、仏様の教えを具体化していく保育」ととらえた上で、当園が真宗保育の具体的な展開に当たって留意すべき事項を次のとおり理解した。

#### 1 心理探究

- ①好奇心・発見する力
- ②積極性
- ③独創性
- ④熱中する力・持続性・我慢など

#### 2 生命・自然尊重

- ①すべての生命尊重
- ②自然重視
- ③感動する力・畏敬の念
- ④受容する心・思いやり
- ⑤心身の健康など

#### 3 報恩感謝・和合精進

- ①感謝の心
- ②謙虚さ・素直さ
- ③平等
- ④社会的協調性
- ⑤自立心
- ⑥挨拶
- ⑦努力等

これらの事項が日々の保育や宗教行事を通してどのように展開されているか、また改善すべき課題等は何か、について検討評価するに当たっては、学校教育、幼児教育、宗教にそれぞれ造詣の深い専門家3人で構成される「札幌大谷幼稚園学校評価委員会」を3回にわたって開催させていただき、各委員の先生方からいただいた貴重なご意見・ご提言・教員自己評価結果及び保護者アンケート結果を踏まえて取りまとめた。

### 第2 重点目標・評価項目に係わる評価結果及び改善・検討を要する事項

#### 1 真宗保育の理念を生かす環境を整えよう

—01 子どもたちの好奇心・積極性・発見する力などを育てる環境を整えよう。

##### 評価B

“よくできた”が6割。“ほとんど出来なかった”が4割。園外活動の講師の先生の声かけや教師同士の関わりから深めて欲しい。今後への努力に期待したい。

保護者アンケートの結果は9、8割の保護者の方が“大人が見過ごすような小さい事に目や耳を傾けている”と高い評価をいただいた。

－02 我慢する力・継続できる力を育てる環境を整えよう。

評価B

“よくできた”が6割。“ほとんど出来なかった”が4割。

－03 自分と違う他者や他者と違う自分を受容できる心、思いやりの心を育てる環境を整えよう。

評価A

“よくできた”が8,5割。“ほとんど出来なかった”が1,5割。「思いやりのこころ」を育てる工夫が高い評価に繋がった。園としての教育目標が、それぞれの先生に根付いてきた。保護者アンケートの結果は9,5割の保護者の方が“思いやりの心”が育っていると高い評価をいただいた。

－04 独創性を創造できる環境づくりを進めよう。

評価C

“よくできた”が3割。“ほとんど出来なかった”が7割。子ども一人ひとりの創造性を伸ばす力の工夫は、経験年数の違いによって差が表れた。幼稚園として独創性を育てる。ノウハウの蓄積と研究を充実させたい。

－05 生命の不思議さや生命の力を感じる心を育てる環境を整えよう。

評価C

“よくできた”が4,6割。“どちらかというとはほとんどできなかった”が4,6割。経験年数が浅い教師への研修を充実させたい。保護者アンケートの結果は9,5割の保護者の方が“命あるものにやさしい心”が育っていると高い評価をいただいた。

－06 自然の直接体験を通して、その「美しさ」・「不思議さ」・「大切さ」を感じ関わりを深められる環境を整えよう。

評価B

“良く出来た”が8割。経験の浅い教師は、直接体験の場での関わりを実感しやすい反面、少数ではあるが“ほとんど出来なかった”との回答もあったことから評価Bとした。保護者アンケートの結果は9,7割の保護者の方が“自然への興味を持つ心”が育っていると高い評価をいただいた。りんごの種にも命があること、植物を大切にすることを子どもから教えられる。直接体験が子どもの興味関心を育て、心が育まれる活動を今後も続けていきたい。

- －07 様々な体験を通して感動できる心を育て、その感動を伝え合う楽しさを共有できる環境を整えよう。

評価A

9割以上の教師が“非常によくできた”“よくできた”に回答。心を育てる関わりが高い評価に繋がったことは嬉しいことである。

- －08 他者との関係を含めた様々な関わりを通して得られる、「親しみ」や「敬う心」が養われる」環境を整えよう。

評価B

8割近い教師が“非常によくできた”に回答。

- －09 元気な心と体をつくる環境を整えよう。

評価B

8割近い教師が“よくできた”に回答。

- －10 感謝の心を育て、「ありがとう」と伝え合える環境を整えよう。

評価A

“非常によくできた”が2割、“よくできた”が7割近い。合わせて9割以上の教師が“よくできた”に回答。仏教幼稚園として嬉しい評価に繋がった。保護者アンケートの結果は9、5割の保護者の方が“人に対してありがとうの気持ち”が育っていると高い評価をいただいた。

- －11 素直な心や、やわらかな心を育てる環境を整えよう。

評価B

“非常によくできた”が1割、“よくできた”が6割近い。4割近い教師が“ほとんどできなかった”に回答していることから、課題を残したと考えている。保護者アンケートの結果は8割の保護者の方が、“感動する心、相手を褒める心”が育っていると評価をいただいた。

- －12 挨拶や社会的協調性を育てる環境を整えよう。

評価B

“よくできた”が7割。より一層、自主的に挨拶をする習慣を育てたい。保護者アンケートの結果は8、5割の保護者の方が、“挨拶をする習慣”が育っていると評価をいただいた。

- －13 自立と自律できる心を育てる環境を整えよう。

評価B

“非常によくできた”が1割弱。“よくできた”が5割近い。合わせると5割強になる。“ほとんどできなかった”が5割弱。”できなかった”点の反省を日常の活動に活かせるよう教師の指導に努めたい。

- －14 命の大切さに気づき、一人ひとり皆平等だと感じる心を育てる環境を整えよう。

評価C

“よくできた”が4割近い。“ほとんどできなかった”が6割。仏教幼稚園として、今後の工夫に検討したい。

2 宗教教育や宗教行事への取組みを工夫しよう

- －15 お釈迦様や親鸞聖人について、わかりやすく子どもたちに伝える工夫をしよう。

評価C

“よくできた”が1割弱。“ほとんどできなかった”が9割。お釈迦様がお生まれになった花まつりの大役を務めた年長の教師は、分かり易く伝える工夫ができた。報恩講の行事は難しい面もある。が、教師自身が深く理解していない面も見られることから、研修の充実を図りたい。

- －16 行事の事前の取組み、事後の振り返りを行い、共通理解を進めよう。

評価C

“よくできた”が3割。“ほとんどできなかった”が7割。行事の事前の取組みや事後の反省を行った。が、共通理解を深めるまでは、時間等の制約があったことから、教員の業務量の軽減や能率化を工夫したい。

- －17 個々の宗教行事の目的を理解し、子どもたちにわかりやすく伝える工夫をしよう。

評価C

“よくできた”が1割弱。“ほとんどできなかった”が8割。設問の⑮と同じような評価がでた。その他の1割弱はパート教諭が多く、今後の課題としたい。

- －18 形式だけに流されることなく、一つ一つの宗教行事から新しい発見をしよう。

評価C

“ほとんどできなかった”が9割以上。また、その他の1割弱はパート教諭が多く、今後の課題としたい。

### 3 もっと真宗保育者になろう

- －19 真宗保育を通じて常に自己を省みながら、学び続けるという取り組みをしよう。

#### 評価B

“よくできた”が5割。“ほとんどできなかつた”が4割強。5割の教師が自己を省みながら学び続ける取り組みに、努力を重ねていることが嬉しい。

- －20 真宗保育についての保護者の理解が一層進むための取り組みをしよう。

#### 評価C

“どちらかというのできなかつた”は6割。“ほとんどできなかつた”が3割。その他の1割弱はパート教諭。教師自身の「真宗保育」への理解を深める取り組みを工夫したい。

- －21 仏教や浄土真宗に対する理解をもう一步深めよう。

#### 評価C

“よくできた”が1割強。“どちらかというのできなかつた”は6割。ほとんどできなかつた”が1割。その他の1割弱はパート教諭。大谷保育の研修をとおして深めていきたい。

- －22 仏教や浄土真宗の教えについて、職員間での意見交換をしてみよう。

#### 評価C

“よくできた”が1割強。“ほとんどできなかつた”は8割弱。その他の1割弱はパート教諭。21と同じく研修で理解を深めたい。

- －23 仏教以外の宗教についても理解を進める取り組みをしてみよう。

#### 評価D

“ほとんどできなかつた”が9割弱。その他の1割弱はパート教諭。  
22に同じ。

- －24 日常的に真宗保育を学べる場を準備しよう。

#### 評価A

子どもの様子を確認しあう場をとおして、子どもの気持ちに寄り添う真宗保育の実践の場として学びを続けていきたい

- －25 真宗保育の保育者として育ちを確認できる場を準備しよう。

#### 評価A

年2回行われる真宗保育研修会に参加し、これからも真宗保育者としての資質を深めていきたい。

ー26 失敗を反省し、他者の意見も積極的に受け入れながら、さらに良くしていこうという心を鍛えよう。

評価 A

“よくできた”が9割。“どちらかというとできなかった”は4割。嬉しい評価となった。

第3【総合的な評価と今後の課題】

『真宗保育の理念を生かす環境を整えよう』では、“自分と違う他者や他者と違う自分を受容できる心、思いやりの心を育てる”“様々な体験を通して子ども達の感動できる心を育て、感動を伝う楽しさを共有する”“感謝の心を育て、「ありがとう」と伝え合える”工夫を評価Aとした。大谷保育の精神が繋がっていることが伝わり嬉しい評価に繋がった。“自然の直接体験をとおして、「美しさ」「不思議さ」「大切さ」を感じ、関わりを深められる”“他者との関係を含めた様々な関わりをとおして得られる「親しみ」や「敬う心」が養われる”“元気な心と体をつくる”“「挨拶」の習慣や「社会的協調性」「素直な心」や「わらかな心」を育てる”工夫を評価Bとした。工夫の在り方によっては評価Aなることを期待したい。“子ども達「創造性を創造できる力」を育てる”“「命の大切さに気づき、一人ひとり皆平等だと感じる心”の工夫は評価Cとした。命の保育の取り組みを保育に活かす工夫は、日々の準備に追われ共通理解を深めるまでは、時間等の制約があった。業務量の軽減や能率化を課題としたい。

『宗教教育や宗教行事への取り組みを工夫しよう』では、全ての項目に“ほとんどできなかった”の結果になり評価Cとした。宗教の行事（花まつり・報恩講・成道会・涅槃会）は、儀式としての活動が主になり、子ども達に分かり易く伝える工夫と、教師自身が深く理解していないこと面もあり今後の課題としたい。

『もっと真宗保育者になろう』では、“失敗を反省し、他者の意見も積極的に受け入れながら、さらによくしていこうという心の育ち”を評価Aとした。

“子どもの目線、保護者の目線に立った丁寧な保育を心がけた”は評価Bとした。“真宗保育についての保護者の理解に対する働きかけ”“仏教や浄土真宗の教えについての教員間の意見交換”等は評価Cとした。

“仏教以外の宗教についての理解を進める取り組みについて”は評価Dとした。真宗保育を教育の柱としている幼稚園にとって、数多くの課題を抱えているが、結果をすぐ求めるのではなく、日々の保育の実践や研修を通して、人間としての在りようを考える教師集団でありたいと思う。

「子どもの冒険心・好奇心・創造性を満たす取り組み」「思いやりの心の育ち」「ありがとうの感謝の気持ち」「命あるものへのやさしさ」「いただきます・ご

ちそうさまの挨拶の習慣」「仏教の心を大切にする取り組み」「自然の興味」「食育の興味」等、真宗保育の要となる教育が保護者の皆さまから高い評価をいただいたことは仏教園として、嬉しい評価につながった。また、「幼稚園への意見要望を遠慮なく言える、相談しやすい雰囲気」「子育ての中で子どもから教えられたこと」も高い評価をいただき、大谷保育のテーマである“ともに生きともに育ちあう”関係が親子間、保護者と幼稚園で育っていることを嬉しく思う。

新制度に移行する認定子ども園においても、真宗保育を柱とした保育とさらなる環境の充実を整えて行きたい。

最後に、今回の学校評価にご協力、ご尽力いただいた「札幌大谷幼稚園学校評価委員会」の委員の皆様、幼稚園保護者の皆様方に心よりお礼を申し上げるとともに、今回の評価結果を生かした園づくりを進めてまいりますので、皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

平成28年5月30日

札幌大谷幼稚園 園長 渡部律子